



せられた。年々高齢化による会員数減
少著しき現状においてのこの成果は、
会員及び役員の皆様のご協力の賜と感
謝に耐えない。

第六回 関西現代俳句大会 入選句

(計 二十七句)

大会賞

湖の端に日のある寒の入

桑田和子

秀逸賞

きれ切れの女の時間毛糸編む

仲井タミ江

天金のふくらむ聖書小鳥来る

竹内久子

入選賞

開戦日みんな黙ってごはん食ぶ

千原恭子

角伐られ風の記憶をなくす鹿

木村オサム

落葉の中火種のやうな園児たち

片山熙子

夫といるただそれだけに注連飾る

岩本光子

選者特選賞

(赤尾 恵以選)

語り継ぐ時間の中のみならずな粥

前田霧人

(伊丹三樹彦選)

二筋の水尾の寄り添う残り鴨

桑田和子

(宇多喜代子選)

落葉の中火種のやうな園児たち

片山熙子

(尾崎 青磁選)

輝割れの地よりふき出る命の譜

堀川博子



今回も選者特選賞が好評

—— 三二八名の皆様から、一四七六句 ——

第六回関西現代俳句大会は四月二十三日(土)、大阪市中央区のホテルヴィアール大阪において、応募者三一八名、投句数一四七六句の参加を得て、理事会・総会・懇親会と共に盛大に開催された。今年には会員の皆様のご協力により応募者、投句数共に前回は大きく上回った。取分け会員外の投句者が大幅に増加、一〇〇名の皆様から三七八句が寄

(久保 純夫選)

梟になろうか脳ぬれている

玉記 久美子

(小泉八重子選)

さつきまで狐でありし薬指

上森 敦代

(鈴鹿 仁選)

風の日のころに冬の樹がいつぼん

小池 万里子

(鈴鹿 呂仁選)

大佛のごとき赤子や冬帽子

神成 桂子

(高橋 将夫選)

拾ふ気になりて見え出す木の実かな

岩成 天風

(谷口 洋選)

もう誰も叱つてくれず木の葉髪

夢乃 彩音

(谷下 一玄選)

冬籠話し相手の鏡拭く

東 徹

(出口 善子選)

角伐られ風の記憶をなくす鹿

木村 オサム

(豊長みのる選)

わが駅に着けばわが村春隣

藤本 晋

(西谷 剛周選)

生きものに水がぶつかる悟朗の忌

玉記 久美子

(花谷 清選)

テ・デウム響く西坂致命祭

野村 朴人

(政野すず子選)

あの時の哀しみに似て返り花

志村 宣子

(的場 秀恭選)

夏柑のたわわ島ごと忘れらる

志々見 久美子

(室生幸太郎選)

万葉のころをのせて若菜つむ

野村 朝子

(吉田 成子選)

落葉の中火種のやうな園児たち

片山 熙子

(若森 京子選)

生きものに水がぶつかる悟朗の忌

玉記 久美子

(入選句は関西現代俳句協会のホームページで紹介して
います)

俳句大会の詳細について

第六回俳句大会の参加作品を作者無記名の「選句稿」にまとめ、二十名の各選者に送付した。選句は一人四十句とし、内一句を選者特選賞として選んでいただいた。

今回も会員の皆様はじめ、俳句愛好家の皆様方の俳句に對する熱意と、当会への熱いご支援のお蔭と改めて感謝を申し上げると共に、ご多忙中にも拘わらず快く選者をお引受け頂いた方々にも、また、類似句の調査にご協力下さった現代俳句協会事務局のお力添えにも、厚くお礼を申し上げます。次第である。

俳句大会は西川吉弘企画部長の司会により開会、花谷清副会長は「過去の大会と比較して参加人数が増えているのは、大会に魅力のあることの反映である。昨年から選者特選賞を設けてをり、どの選者がどの句を選んだのかを考へるのも一つの勉強になる」との話に耳を傾けた。引き続き音羽和俊氏により大会賞一名、秀逸賞二名、入選賞四名と選者特選賞二十名の披講が行われた。

表彰は大会賞・秀逸賞・入選賞の七名の方々に吉田成子
会長より賞状と副賞が授与された。

選者特選賞は今年から、各選者に賞状・副賞の授与と同
時に講評をしていただき好評であった。

なお俳句大会の選者は協会の理事及び各結社の代表者を
中心とした次の方々をお願いした。(五十音順)

赤尾恵以(渦)・伊丹三樹彦(青群)・宇多喜代子(草樹)・
尾崎青磁(蕪の会)・久保純夫(儒良)・小泉八重子(季流)・
鈴鹿仁(京鹿子)・鈴鹿呂仁(京鹿子)・高橋将夫(槐)・
谷口洋(駅)・谷下一玄(半夜)・出口善子(六曜)・豊長
みのる(風樹)・西谷剛周(幻)・花谷清(藍)・政野すず
子(暁)・的場秀恭(獅林)・室生幸太郎(暁)・吉田成子
(草樹)・若森京子(海程)の二十名の選者です。

以上をもって大会は滞りなく無事終了した。多数の皆様
のご協力に深く感謝する次第である。(事務局)



事務局からのお願い

※会員の句集、著書について

会員の皆様が上梓された句集や著書は関西現代俳句
協会のホームページで紹介していますので、事務
局へ一冊ご寄贈いただきますようお願いいたします。
なお事務局の住所は次の通りです。

〒六一九一〇二二四

木津川市兜台五―一―十三 木津かぶと台

十四―一〇一 上藤^{うえむち}おさむ方

関西現代俳句協会事務局

※会員の訃報について

会員のご逝去は、ご家族や会員の皆様からのお知ら
せにより、東京の協会本部に連絡させていただいて
いますので、お知合いのご逝去は事務局へご一報く
ださい。

忘年・句集祭のお知らせ

この会報に本年の「忘年・句集祭」のご案内と参加申
込みのハガキ、並びに句集出展の申込み用紙を同封し
ています。

申込みの締切りは十一月五日です。
多数のご参加をお待ちしています。

会長挨拶

関西現代俳句協会

会長 吉田 成子



平成二十五年四月以来の当協会の会長はじめ役員
の任期は今年四月で終了
しました。不慣れな私
どもが大過なく任期を終
える事が出来ましたのは
先輩である顧問はじめ
会員の皆様の温かいご
支援があったことと御
礼申し上げます。

本来は今年度から新しい
体制で運営されるべき
ですが、四月の総会の
議決により全役員
の再任が決まり、もう
一期務めさせて頂く
ことになりました。あと
三年の任期中には
平成三十年秋の
関西担当の全国大会
もありません。この
大仕事も含めて無事
に任務を全う出来る
かどうか、覚束ない
思いはありますが、
会員の皆様のご協
力を得つつ今後
も協会の発展に力
を尽くしたいと思
っています。皆さ
まの篤いご支援
をお願い申し
上げます。

本年度の事業は昨年と同じ
ですが、四月の俳句大会は前

回に勝る応募句があり、
会員が減少するなかで
まずまずの成果があり
ましたことを喜んでいま
す。また昨年からは
始めました定例会も
回を重ねるたびに
参加者が増えていま
す。今後ますます
会員が減ると予想
され、各事業の
参加人数に不安
がありますが、
会員の皆様が
親しめるよう
な運営を心掛
けたいと思
っています。

本年四月の熊本地震は
この国にまた
も大きな災害
をもたらしま
した。また豪
雨による災害
も数ありまし
た。幸い関
西まで被害
は及びませ
んでしたが、
被災地の
皆様の事
を思うと
心が痛み
ます。僅
かでも被災
された方
々の役に
立てばとの
思いで、
今春の総
会の場に
「募金箱」
を置き
皆様に
御協力
いただきました。
地震
王国と
言われる
国に住
む我々
には先
の東北
地震も
含めて
改めて
他人
事では
ない
思いが
しま
した
が、天
災やテ
ロの無
いこの
美しい
日本
の風土
を詠
み続
けられ
る日々
であり
たいと
思っ
ていま
す。

熊本地震災義捐金

関西現代俳句協会では、
四月の総会
において募
金箱を置
き皆様に
ご協力を
いただきました。

義捐金三一、九八六
円は日本赤
十字に送
金させて
いただきました。
有難うござ
いました。

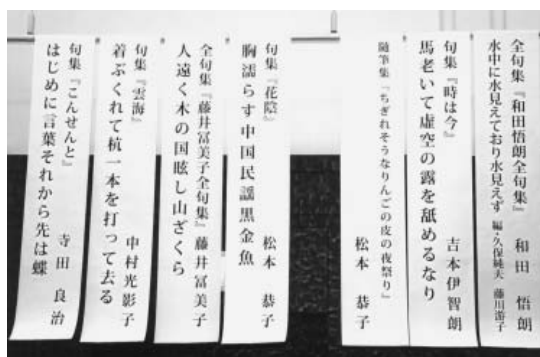
関西現代俳句協会事業報告

平成27年7月～28年6月

会長 吉田成子

◆忘年会 & 第40回句集祭

恒例の「忘年会 & 句集祭」を平成27年12月5日（土）にクリスマスツリーが飾られて、華やかな大阪船場のホテルヴィアーレ大阪で開催した。参加者は68名であつ



た。吉田成子会長より「今回は40回目という一つの節目となった。年平均20冊の句集の出版をお祝いしたとして、40年で八〇〇冊を超えることになり、歴史の重みを感じている。今回は平成27年度の物故者の故和田悟朗さん、故吉本伊智朗さんの句集も出展されていることを記憶にとどめたい。和やかな会になることを期待している。」との挨拶。上藤事務局長から「先ほどの理事会において議題は全て滞りなく承認された」旨の報告がなされた。続いて句集祭となり、15点の句集と、7点の文集等合計22点の披露と句集代表句の披露がなされ、同時に22点の句集・文集名及び代表句と文集題を懸垂幕で表示した。

◆平成28年度理事会・総会

今年の「総会」は4月23日（土）にホテルヴィアーレ大阪で開催した。理事会、総会、に続き第六回俳句大会、懇親会が行なわれた。

出席者は理事会36名・総会72名・俳句大会81名・懇親会68名であった。総会は72名の出席と330名の委任状提出があり成立した。議長に選出された場秀恭副会長の議事進行によって審議され、何れも理事会の審議事項と変わらず、満場一致の拍手で可決された。

（議事及び報告事項）

- 第1号議案 平成27年度事業報告
- 第2号議案 平成27年度会計報告

第3号議案 平成28年度事業計画

第4号議案 平成28年度 予算案

第5号議案 役員改選について

※関西現代俳句協会は平成30年度の全国大会開催に備え
役員増員及び交替について提案、次の通り満場一致で
承認された。

記

会長 吉田 成子

(事務局) ○印 新任

事務局長兼

広報部長 上藤おさむ

企画部長

西川 吉弘

経理部長 村田あを衣

事務局長補佐

川崎 奈美

○青年部長 久留島 元

副会長 尾崎 青磁

副会長

高橋 将夫

副会長 花谷 清

副会長

的場 秀恭

副会長 若森 京子

○副会長

鈴鹿 呂仁

顧問 赤尾 恵以

顧問

伊丹三樹彦

顧問 宇多喜代子

顧問

柿本 多映

顧問 北 さとり

顧問

小泉八重子

顧問 鈴木 仁

顧問

谷下 一玄

顧問 豊長みのる

顧問

中井不二男

顧問 花谷 和子

顧問

日原 輝子

顧問 政野すず子

顧問

室生幸太郎

理事 久保 純夫

理事

桑田 和子

理事 古梅 敏彦

理事 谷口 洋

理事 辻本 冷湖

理事 西原 和孝

理事 森田 智子

理事 音羽 和俊

理事 橋本 昭一

理事 出口 善子

理事 前田 霧人

理事 森口 和子

理事 霧人 和子

理事 霧人 和子

理事 霧人 和子

理事 霧人 和子

理事 霧人 和子

理事 霧人 和子

理事 霧人 和子

理事 霧人 和子

理事 霧人 和子

理事 霧人 和子

理事 霧人 和子

理事 霧人 和子

理事 霧人 和子

理事 霧人 和子

◆青年部の活動

①「追悼・和田悟朗勉強会&句会」

日時…平成二十七年八月九日(日)

場所…神戸サンセンタープラザ貸会議室十七号室

報告者…野口裕、岡村知昭、曾根毅、飯屋賢一

参加者…三十五名

②俳句が日本を元気にする「辛口俳句先生 夏井いつき

講演会&句会ライブ」

日時…平成二十七年十月四日(日)

場所…宝塚ソリオホール

講師…夏井いつき

参加者…二百九十四名(勉強会参加二十五名)

③「俳句ギャザリング二〇一五」

日時…平成二十七年十二月二十六日(土)

場所…伊丹・柿衛文庫

参加者…二十五名

④現代俳句協会青年部紹介冊子作成

全国の青年部会員に呼びかけ、鋭意作成中

◆青年部長交代

平成二十八年度より三木基史氏に代わり、青年部長に久留島元が就任。九月十七日、大阪にて坂西敦子氏(ホトトギス、円虹所属)を招き勉強会・句会を開催。従来の「現代俳句協会」にとらわれず、多様な立場から「現代の俳句」をとらえたい。今後も勉強会、句会などを企画中であり、情報は随時(www.kangempai.jp/seinenbu/index.html)に掲載される。

久留島元青年部長 一九八五年生。「船団の会」会員

◆会報の発行

平成28年10月第45号を発行、関西地区全会員、全地区現代俳句協会及び関係先に配布した。(事務局)

お願い

現代俳句協会は来年七十周年を迎えます。この記念事業として来年秋には第五十四回全国俳句大会に加えて、記念式典、祝賀会などの催しを計画されています。

また、「現代俳句協会70年の歩み」「昭和俳句作品年表・戦後編」などの刊行物の出版も予定されています。

現在協会ではこの記念事業を遂行するための基金を募集されています。

募集要領は左記の通りです。

記

募集期間

平成28年6月～29年12月末日迄

基金一口の金額

三千元(一人何口、何回でも可)

なおこの基金ののうちよ振込用紙が「現代俳句」8月号にとじ込みされています。

関西現代俳句協会員の皆様のご協力をお願いします。

新会員の一句（二十八年年度）

今年度、現代俳句協会に入会された関西地区の会員の
方々から一句ずつお寄せいただきましたので、ご披露いた
します。
（到着順・括弧内は所属誌）

レモンテイ余生は好きな道選び	江連 彰子（京鹿子）
新涼やすこし固めの目玉焼	福岡 和子（藍）
原子炉の白いドームまで夏野	大谷 茂樹（京鹿子）
夏立つやまり大らかに牧の駒	新納 道廣（藍）
臆病者の生きる術知る蜥蜴かな	ほなが穂心
鮑のみ飯子のこぎり今朝の秋	椋本 望生（星座）
昼花火戸口に嘎れし女声	上野乃武彌（草樹）
傘寿なら語り部たらん敗戦忌	森重 満（藍）
金魚鉢に水がたつぷり死者の家	木村 和也（船団の会）
人はみず水のかたちの新豆腐	かとうのりを
翼二枚ザツクに入れて春の旅	光末 紀子（藍）
人の世の木綿なほ良し新豆腐	足立喜美子（京鹿子）
椎の実の影を降らせしわらべ仏	松山 潤子（京鹿子）
冬薔薇モーツアルトは忘れていい	林 達男（京鹿子）
うす暗き部屋に母ある更衣	中村 治美（草樹）
流星の気持ち汲みたるパラシュート	浜脇不如帰（子燕）

今年度の入会者は十六名であった。

事務局便り

経理部からのお知らせ

四月二十三日（土）、ホテルヴィアーレ大阪にて開催さ
れました総会は七十二名の出席者があり、平成二十七年
度の会計報告、二十八年年度の予算案などご審議頂き何れも事
務局提案通り可決されました。詳しい数字は別表の会計報
告をご覧下さい。何とか予算通りの決算となりましたが、
これは俳句大会開催に対する皆様のご協力のお蔭です。三
十年度は関西で全国大会を開催しますので、二十九年
度の関西俳句大会は控え、全国大会に全力を尽くす所存
ですが、二十九年度は会計面で苦しい年度となります。
会員も年々減少してをり「おひとりがお一人を」の覚悟で
新会員の獲得を要に皆様の一層のご協力を頂きます様
お願いいたします。
（経理部長 村田あを衣）

企画部部长ご挨拶

昨年四月より企画部長を担当しております西川吉弘です。
昨年度は定例会を二回開催しました。その後、句集祭・
第六回俳句大会等、文字通りの浅学非才そのものですが、
会長、事務局長のご指導と会員の皆様方のご支援をいた
だきまして、微力を振り絞って参りました。今年も第三回定
例会を七月に盛況裡に終えました。また、十月には第四
回例会を、同じホテルヴィアーレ大阪で開催いたします。
今後共、ご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

（企画部長 西川吉弘）

第二回定例会開催

平成二十七年十月三十一日（土）午後一時より大阪堂島の中央電気倶楽部に於いて第二回の定例会を開催した。参加者は事務局五名を含め総勢四十七名であった。

当季雑詠句を各自三句提出。第一回は会員互選方式であったが、今回は選者に加わって頂き、会員は三句選・選者は十句選とした。因みに選者は関西現代俳句協会の選者で西谷剛周氏・日原輝子氏・的場秀恭氏・吉田成子氏の四名であった前回より出席者が多かった事と、選者が加わったことで充実した句会となった。

参加者全員の作品を二句のみ掲載いたします。

（五十音順）

重陽やをのこばかりを産みにける
花野から戻ってきたる顔をして
木守柿きつと今晚星になる
赤とんぼびたりと決まり金メダル
紙函を平らにつぶす神の留守
皺のばす樋口一葉小鳥来る
神鹿の角伐られても神の鹿
秋茄子や並べて女の長生きす

雨村 敏子
〃
いわきり秋月
〃
上田千恵子
〃
上藤おさむ
〃

短日の人待つ影の生きてをり
三角のカボチャ煮らるるハロウイン
味噌汁の煮つまり草の絮しきり
銀漢の薄れ海抜ゼロの家
堂島の橋げた乾く秋の空
筆入れのゆるき結び目天の川
爽やかに飢えたる鳩に囲まるる
橋渡る末枯れの水すれすれに
馬肥ゆる秋アフリカに飢餓の子ら
老いゆきて相寄り介護夕時雨
新酒空け全部の酒が騒ぎ出す
七夕に乳牛の気配大きいよ
両耳にばうばうと風刈田道
秋風やかろき骸の翹光る
秋風や実印を押す三姉妹
代用食の世代に甘し藪の飯
緊急発進冬の水深からむ
夕焼けのセーターやはらか楽器めく
男の手借りて襖を入れにけり
身の底に落ちてゆきたる卵酒
鷹渡る風乗り替へて伊良湖岬
大根蒔く風ある時は低くかな
無患子の実をふところに女ひとり
靖国の杜黒きのこ白きのこ

内田 茂
〃
榎本 裕子
〃
大西 陽子
〃
岡野多江子
〃
勝 俊一
〃
葛城 裸時
〃
金山 桜子
〃
河口久美子
〃
川口 真理
〃
川崎 奈美
〃
北村 峰月
〃
木野 俊子
〃

徘徊の老爺の行方十三夜
 あすか路の代代の燠火か曼珠沙華
 蓮枯れて一切青き天一枚
 晩秋の上着一枚今は手に
 落葉掃く己が足跡消すやうに
 熊の飢へすすむ界限晴れわたり
 玉碎の島より無数の夜這星
 大輪の菊投げ入れよ脱走兵に
 朝からのだんまり決めし母とかなかな
 平和かな青年獅子と駈け抜けり
 硝子越す灯のひえびえと義肢作り
 鴟の贅つらき仕打と思ひけり
 尻尾で風切る象さん諸が好き
 名月の裏路地庭師の戻り径
 一族の出でては入りてつづれさせ
 灯の下で顔確かめる牛膝
 平和とはかくも山茶花日和かな
 方舟の櫂の雫も秋のいろ
 地球と月同じ歳だ仲好しだ
 案山子の手に一書あかぼし俳句帖
 芒野の真っ只中に現世あり
 鴨川に風の香りや雁渡し
 銀漢や人類二足歩行の日
 瞬きもうつつの単位鉦叩

熊川 暁子
 〃
 桑田 和子
 〃
 志村 宣子
 〃
 翠 雲母
 〃
 谷口 道子
 〃
 田宮 尚樹
 〃
 樽谷 寛子
 〃
 中嶋 飛鳥
 〃
 中田 武志
 〃
 中俣 博
 〃
 西川 吉弘
 〃
 西田 唯士
 〃

云うことがいっぱいあつて濁り酒
 熱爛は銭と引換え新世界
 病棟の大窓照らす秋夕焼
 点滴の外れたる手で蜜柑剝く
 薄れゆく「女人禁制」鴟高音
 いくつもの懸案事項コキア噴く
 ひたすらの陳謝左右に秋暮れる
 寝返れど寝返りおれど酷暑なる
 秋夕焼入れてバーボン飲みごろに
 颯雲大海原を裾とせり
 田仕舞の煙をちこち峡の空
 秋祭果てし産土無表情
 目力の抜け切つたりし捨案山子
 淡海の友よおやすみ浮寝鳥
 菊人形夜ごとの昔噺かな
 桃熟るる黒光りして箱階段
 そぞろ寒まつ直ぐに来て生き惑ふ
 末枯の野を移へる落暉かな
 鼻息の荒いアイロン文化の日
 青空の青を嵌めこむ松手入
 象の耳木枯一号打ち返す
 日の短か積木仕上げはあと一つ
 秋明菊昭和いろこき散髪屋
 温度差のある人と行く萩の寺

西谷 剛周
 〃
 野村 朴人
 〃
 橋本 昭一
 〃
 日原 輝子
 〃
 樋本 和恵
 〃
 平井芙美子
 〃
 堀竹 善子
 〃
 本郷 公子
 〃
 的場 秀恭
 〃
 三好つや子
 〃
 村田あを衣
 〃
 森口 和子
 〃

万力の緩む時雁の数列

赤子鳴く対幻想の芋嵐

ましら酒ほどに得難き出会ひかな

ハロウインや思案投げ首穴まどひ

冬瓜のむすつと居据わる土間あかり

ホスピスの白い病棟小鳥くる

霧深きリフトの音を待ちにけり

賓頭廬の朱の無き膝や小鳥来る

水飲んで空気の変はる秋の空

うしろから来るもの冬も足音も

象一頭飼うて愁思を追ひ出せず

秋気澄む絵図帖で探す京の菓子

秋まつり神を迎へる木遣り節

黄落の風の作りし吹きだまり

森本 突張

柳川 晋

山崎よしひろ

山田由紀子

吉田 成子

吉村紀代子

和田 燐子

慶 祝

このたび現代俳句協会特別顧問の宇多喜代子様が、日本芸術院賞を受賞されましたので、お知らせします。

第三回定例会開催

平成二十八年七月三十日（土）午後一時より大阪船場のホテルヴィアーレ大阪に於いて第三回定例会を開催した。参加者は事務局五名を含め総勢四十八名であった。当季雑詠句を各自三句提出。会員は三句選四名の選者は十句選とした。選者は、高橋将夫氏、谷下一玄氏、的場秀恭氏、吉田成子氏の四名であった。なお第四回は平成二十八年十月二十九日（土）にヴィアーレ大阪で開催する。



参加者全員の作品を二句のみ掲載します。(五十音順)

ただ前へ進むことのみ炎天下
縄をもて鉾の軋みを逃しけり
神杉の声漏らしたり夏の月
山百合や髪を濡らして戻りけり
ひらがなの様な涼風流れけり
空蟬や生命線は変はるらし
遠蟬や珈琲カップ卓に置く
撮ったでせふ振り向く人のサングラス
何事か呪文唱えて海女潜く
沖縄戦展息を殺して汗の人
騒音の中に無我生む油照
少年の刑務所の晝晩夏光
ラムネ飲む思案一つを転がして
身の一つ置どころなきサングラス
木を石を雨の洗ひし星まつり
青田風日本ぢゆうを輝かせ
火照りたるまま上りくる夏の月
しば漬や酷暑乗り切る昼餉かな
光速のセミの本をたたみかけ
散りばめた梅雨の箱達開けまくる
一列の鱧の鰓穴八月来
イルカショー飛沫くる席より埋まる

有馬 映子
〃
石井 和子
〃
上田千恵子
〃
上野乃武彌
〃
上藤おさむ
〃
江島 照美
〃
大西 陽子
〃
岡野多江子
〃
小川 桂子
〃
葛城 裸時
〃
川崎 奈美
〃

靴底の百物語火の匂い
素顔のまま八月六日行きのバス
茄子の馬母の小言を乗せて来し
火の性を青くゆらして熱帯魚
積み上げしものは崩れる雲の峰
辻にきてまだ別れ得ず星祭
研ぎ汁に米粒混じる敗戦忌
なんとなく夫の血の濃き浴衣の娘
百日紅派兵の車通る道
七月のトランポリンか十八歳
太陽に近くて涼し山頂は
サーフィン寄る年波も乗りこなす
水青きところに佇ちて鮎釣師
ごさぶりのねらひさだめし点へくる
いかな日も平穩はあり蓮の花
鯰鍋さきの地震の敵討ち
六文銭のマンホールです炎暑です
一駅歩く青鳶の源兵衛坂
形代の佳き名の橋をくぐりけり
夏逝くや巻貝ゆるむ砂の上
空蟬の重さを腕に感じをる
土用風時計の音の喧し
裏庭に金魚の墓をつくりけり
石仏の里に蜥蜴となりけり

木野 俊子
〃
熊川 暁子
〃
桑田 和子
〃
志村 宣子
〃
翠 雲母
〃
高橋 将夫
〃
谷下 一玄
〃
田宮 尚樹
〃
樽谷 寛子
〃
千原 恭子
〃
中西 厚子
〃
中俣 博
〃

かき氷水の蕙蓄ながながと
 口元を引き締め髪を洗ひをり
 祇園会や日にも月にもなる扇
 古都なれや躑口には鹿も来て
 騙し絵のような空澄み七月尽
 ひまわりの迷路すんなりゴツホ来る
 梅雨ごもり書斎はわれの宝島
 認知症なりたくなって鰻食ふ
 土用の日うまい鯰と誘われ
 鮎放つ村に一女の誕生報
 夕焼や母がゐたなら手をつなく
 竹落葉林は縦の風ばかり
 借景の山もとのふ夜の秋
 お帰りと迎へられたる祭かな
 三尺寝地下足袋の裏見せながら
 山住みの女は強し竹煮草
 船渡御白布の波に滑りだし
 夏越終え纏ふ穢れの軽さかな
 屋台店肩から入る夏のれん
 野の道の乾いて白し金葎
 熱帯夜ともかく枕うら返す
 川音の闇やぶりつつ螢かな
 かなぶんや児らは絵本を丸暗記
 秘すればなほ祈り深まる夜の秋

中溝 玲子	敗戦忌軍手の呼び名他になきや	松島 圭伍
〃	水中花午後の床屋のひまでんな	〃
西川 吉弘	帰省子の先ず深々と眠りけり	的場 秀恭
〃	諦めも生きる術とし水を打つ	〃
西田 唯士	ももすももクレヨンの声灯る家	三好つや子
〃	夜の蟬それは時効になった嘘	〃
野村 朴人	針山に針の埋もれし敗戦忌	村田あを衣
〃	あやとりの橋はくづさず星今宵	〃
橋本 昭一	胃カメラが見付ける命送り梅雨	森口 和子
〃	人形の髪洗う子の大人びて	〃
橋本 道代	眼よりサングラスまで此岸	柳川 晋
〃	虫追ひに囲まれてゐる君と僕	〃
樋本 和恵	水打てば石も声あぐ昼下り	山浦 純
〃	青春を返して下さい敗戦忌	〃
平井美美子	欠伸して涙の先の夕焼け雲	山崎よしひろ
〃	湯上りのほてり静める螢川	〃
福嶋 雄山	一本の朝蜘蛛の糸断ちにけり	養学登志子
〃	九十歳に贈る扇でありしかな	〃
藤本 晋	鳴きに来し蟬が勲章父の墓	吉田 成子
〃	軸の絵に座り直して涼しさよ	〃
星川 淳代	吐ひて吸ふ駅の口まで灼熱す	吉村紀代子
〃	真炎天雑草われを敵とす	〃
本郷 公子	棒飴の溶ける八月十五日	和田 燁子
〃	埋めつくす空地に風のねこじやらし	〃

平成27年度 決算報告書

平成28年 4月23日

(自・平成27年 4月1日～至・平成28年 3月31日) 関西現代俳句協会 (単位：円)

収 入 の 部		支 出 の 部	
項 目	金 額	項 目	金 額
前年度繰越金	2,106,767	総 会 費	704,260
本部交付金	1,525,800	会 議 費	127,788
総 会 費	546,000	俳句大会費	386,819
俳句大会投句料 (投句数1476句)	984,000	句 集 祭	656,544
句 集 祭	396,000	青 年 部	160,735
定例俳句会費	72,000	印 刷 費	246,800
		事 務 費	75,907
		通 信 費	324,250
		交 通 費	152,420
		役 員 手 当	428,000
		ホ ー ム ペ ー ジ 費	120,000
		雑 費	52,200
		弔 費	32,400
		定例俳句会費	68,074
		次 期 繰 越 金	2,094,370
合 計	5,630,567	合 計	5,630,567

三菱東京UFJ銀行普通貯金 1,099,755円 (利子 126円含む)

現金 994,615円

収入 5,630,567円 - 支出 3,536,197円 = 2,094,370円

残金 2,094,370円を次年度へ繰り越します。

上記の通り、平成27年度の収支決算報告を致します。

会 計 村田あを衣

上記の通り、厳正に処理されたことを認め、報告いたします。

平成28年 4月15日 会計監査 古梅 敏彦 辻本 孝子

平成28年度 予 算

平成28年 4月23日

(自・平成28年 4月1日～至・平成29年 3月31日) 関西現代俳句協会 (単位：円)

収 入 の 部		支 出 の 部	
項 目	金 額	項 目	金 額
前年度繰越金	2,094,370	総 会 費 (会場費・親睦会費)	800,000
本部交付金	1,500,000	会 議 費	100,000
総 会 費 (親睦会費)	500,000	句 集 祭 (会場費・親睦会費)	700,000
句集祭参加費 (親睦会費)	400,000	定 例 句 会 費 (会場費・その他)	100,000
定例会参加費	100,000	印 刷 費 (会報・その他)	400,000
青年部活動費	200,000	通 信 費 (郵送料・電話代・その他)	350,000
		事 務 費 (事務用品)	100,000
		交 通 費	200,000
		役 員 手 当	500,000
		青年部活動費 (講演会・句会他)	200,000
		ホ ー ム ペ ー ジ 費	120,000
		雑 費 (慶弔費・消耗品代)	50,000
		次 期 繰 越 金	1,174,370
合 計	4,794,370	合 計	4,794,370

関西現代俳句協会

ホームページの紹介

関西現代俳句協会では、二〇〇四年十月からホームページを開設しています。

閲覧するためには、パソコンや携帯電話のブラウザのアドレス欄に「<http://kangempai.jp/>」を直接入力いただくか、Googleなどの検索サイトで「関西現代俳句協会」と入力し、ページを開いてください。インターネットを使用されない方には、ご理解困難な点もありますので、ここで内容をご紹介します。掲載ご希望の情報については事務局までご連絡ください。

1・トップページ「今月のエッセイ」
会員のエッセイを毎月更新で掲載しています。二〇〇五年一月よりスタート。
バックナンバーもご覧頂けます。
2・協会の入会案内
入会の方法と案内、問合せ先を記載

しております。

3・新着情報
ホームページ開設以来の更新情報や協会情報を掲載。

4・協会の概要
関西現代俳句協会の略史、協会会報の全頁紹介（32号より）。

活動内容（総会、理事会、運営委員会、企画委員会、講演会、全国大会、句集祭、俳句大会・吟行会・定例会）、役員構成、事務局の所在を記載。

5・結社紹介
五十音順と府県別がある。いずれも結社・俳誌名、主宰・代表者名、発行所の所在地、発足年月を記載。（依頼により随時更新）

6・会員の著作
ホームページ開設以来の会員の句集、評論集等などの著書を紹介。

7・イベント案内
協会主催の各種イベント、シンポジウム、全国大会、句会等のお知らせ。

8・青年部ホームページ
青年部員の作品や招待作品、連載エッセイ、句会・勉強会・シンポジウムなどの行事案内と記録を掲載。

謹 悼

平成二十七年八月一日より、本年八月末日迄の期間中に現代俳句協会へ受付けた、ご逝去会員のお名前をお知らせし、謹んで哀悼の意を表します。（敬称略、括弧内は住所と所属誌）

記

後 奈雅史（兵庫県・俳句作家）

鈴木 明芳（京都府・京鹿子）

吉田ひさ枝（大阪府・藍）

石岡百合子（大阪府・半夜）

阪本 彩（大阪府・所属なし）

長尾 信子（大阪府・犀）

関西現代俳句協会青年部により企画運営されています。

9・リンク

協会関係や協会員のホームページ（サイト）やブログを紹介しているページです。

以上、著作や結社についての紹介、会員の皆様のホームページやブログ等を掲載ご希望の方は事務局までお知らせください。（事務局）

◆平成二十八年度の事業予定

本年十月以降来年九月までの関西現代俳句協会の行事は次の通りです。

★会報の発行

会報四十五号を十月に発行

★「忘年&句集祭」開催

平成二十八年十二月三日（土）、ヴィアーレ大阪にて午後二時から理事会、午後三時十分より句集祭、五時三十分より懇親会開催。（今年はシャノン歌手の出演あり）

★総会並びに講演会開催

平成二十九年四月二十二日（土）、

ヴィアーレ大阪において理事会並びに総会、講演会（講師・高野ムツオ氏）講演内容未定。

★平成二十九年年度定例会開催予定

第五回 平成29年7月29日（土）
第六回 平成29年9月30日（土）
それぞれ定員五十名
会場 ホテルヴィアーレ大阪（五階会場）にて開催を予定しています。

○会費納入についてのお願い

平成二十八年度、現代俳句協会会費（一万円）未納の方は、すみやかに所定の振替用紙にて納入をお願い致します。

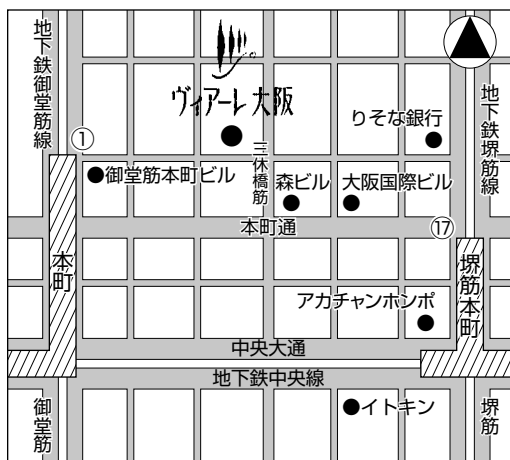
◆「忘年・句集祭」の会場について

会場のヴィアーレ大阪までの道順は、会報同封のご案内にも書いていますが念のため次の通りです。

地下鉄御堂筋線本町駅下車、一号出口を出て、すぐ東（左、堺筋方向）へ徒歩三分（左記地図参照）

なお梅田方面からは一番うしろの車

輻、天王寺方面からは一番前の車両に乗車されると一号出口に近い位置です。



関西現代俳句協会会報・第45号
発行・平成二十八年十月一日
発行人・吉田 成子
編集人・上藤おさむ
事務局・〒六一九一〇二二四
木津川市兜台五一一一三
木津かぶと台十四一〇一
TEL/FAX 〇七七四一七二一八五八四